

「NIRAI KANAI」航海 潜航作業開始 (「よこすか」南太平洋横断航海)

7月14日 支援母船「よこすか」は、「NIRAI KANAI」*1 最初の調査海域である東太平洋海膨(East Pacific Rise)に到着し、潜航調査を開始しました。東太平洋海膨は、寄港地(タヒチパペーテ港)から4500km以上離れており、移動に1週間ほどかかるたいへん遠い海域です。

東太平洋海膨は、新しい海洋地殻が作られ、地球のダイナミックなマンツルのブルーム運動*2の一端を垣間見ることのできる場所であると考えられています。

海底で営まれている地殻運動の証拠を直接観察するため、「しんかい6500」をこの海域に潜航させ、直接研究者が海底観察と試料採取を行うことになりました。

この海底調査では、航海のニックネーム「NIRAI KANAI」に因んだすばらしい研究成果が期待されます。(海洋工学センター)



7月14日潜航後の「しんかい6500」

*1: 航海のニックネーム「NIRAI KANAI」は、一般公募した106件から厳正に審査し、逗子市在住 松岡正子様からの「NIRAIKANAI」(Nippon Ridge Arc and Intra-plate Key processes Apprehension NAvigational Initiative) (「にらいかない」) を採択しました。

「にらいかない」とは、奄美・沖縄地方で海の彼方あるいは海の底・地の底にあると信じられている楽園のことです。そこから年ごとに神が訪れ、豊穡をもたらすと考えられています。

*2: ブルーム運動とは、マンツル内を上昇(又は下降)する熱い(又は冷たい)物質の流れのこと。英語ではPlume Tectonicsと言う。



「しんかい6500」を見学中の松岡さん

生態系変動予測研究プログラムディレクターに和田英太郎博士が就任



和田プログラムディレクター

地球環境フロンティア研究センターの生態系予測変動研究プログラムディレクターに平成16年8月1日付けで、和田英太郎(わだえいたろう)博士が就任しました。

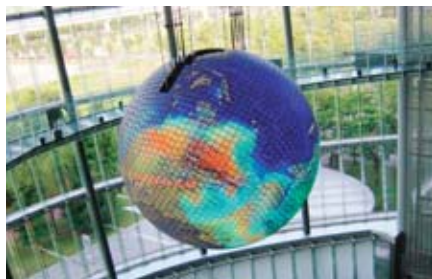
和田博士は、東京教育大学を卒業後、東京大学海洋研究所助手、米国テキサス大学海洋研究所客員研究員、三菱化成生命科学研究所部長、京都大学生態学研究センター長などを歴任後、本年7月末日まで、人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究部教授として活躍してきました。生物地球化学、同位体生態学が専門。

生態系予測変動研究プログラムは、陸域生態系モデル研究、生態系空間分布観測・モデル研究、及び海洋生態系モデル研究の3つの研究グループを持ち、陸と海の生態系両方において、生態系と温暖化など地球規模での環境・気候変動との相互作用を研究しています。和田博士を専任のプログラムディレクターとして迎え、本プログラムのみならず、地球環境フロンティア研究センター全体として、研究体制が強化され、研究活動の更なる充実が期待されます。

(地球環境フロンティア研究センター)

JAMSTEC
NEWS

化学天気予報が日本科学未来館の常設展示になりました



Geo-Cosmosに投影される化学天気予報

地球環境フロンティア研究センター・大気組成変動予測研究プログラムと東京大学気候システム研究センターが共同で開発した全

球化学天気予報システム*1を使い行っている地球規模での大気汚染の予報が、7月17日(土)より、日本科学未来館(ホームページ: <http://www.miraikan.jst.go.jp/>)のシンボル展示「Geo-Cosmos(ジオ・コスモス)」の常設展示として紹介されました。当展示にて、一週間後までの大気汚染物質の長距離輸送が予報されます。公開時間は開館時間の午前10時から、午後5時まで。地球の雲画像や地表面温度の変化などを表現したコンテンツとともに、Geo-Cosmosに投影されます。

日本科学未来館では、今後、さらにインテリジェント(展示解説員)のデモンストレー

ションなどへの活用も予定しております。

この全球化学天気予報システムは、下記のURLにて地球環境フロンティア研究センターのホームページでも公開しています。

http://www.jamstec.go.jp/frsgc/gcw/index_j.html

(地球環境フロンティア研究センター)

*1: 全球化学天気予報は、オゾン、一酸化炭素、窒素酸化物、二酸化硫黄などの大気汚染物質が大気中で長距離輸送される様子を数日までの予報することが可能です。

JAMSTEC
NEWS

白鳳丸入港歓迎式典

学術研究船「白鳳丸」が、海洋研究開発機構に移管されてから初めての長期航海であるマリアナ海域での研究航海を終えて、7月



6日に晴海埠頭へ帰港し、白鳳丸甲板にて入港歓迎式典が行われました。加藤理事長の歓迎の挨拶があり、稲葉船長と山本機関長へ



花束が贈呈されました。稲葉船長は「日本の海洋研究発展のため全力を尽くします」と述べられました。

式後、船長と機関長の案内で船内見学が実施され、続いて、船内の食堂にて文部科学省海洋地球課の佐藤課長や機構の役職員、船員等、白鳳丸の運航に係わる関係者が集まり、懇親会が開催されました。

(海洋工学センター)

左写真: 花束贈呈(左から稲葉船長、山本機関長)

右写真: 船内見学の様子(左から佐藤課長、加藤理事長、林二等航海士)

日本海洋事業(株)ISO-9001(2000年版)取得について



NK赤堀常務から加藤社長へ登録書交付

このたび、日本海洋事業(株)がISO-9001(2000年版)*1 認証を取得し、6月25日に日本海事協会(NK)にて、認証式が行われ、NK赤堀常務から加藤社長に品質マネジメントシステム登録証が手渡されました。

適用業務範囲は

1. 海洋調査船、潜水船支援母船並びに潜水調査船、無人探査機の運航管理業務
2. 海洋調査研究支援業務
3. 深海科学掘削事前調査業務

となっており、日本海洋事業(株)の業務全てを網羅するものです。

この認証取得をきっかけに、運用の安全性や支援業務などのサービスの向上が期待されます。

(海洋工学センター)

*1: ISO-9001(2000年版)は、供給者に対する品質管理、品質保証の国際規格です。この規格を基に、組織は、顧客要求事項および適用される規制要求事項に適合した製品を提供する能力を実証することが必要な場合や、顧客満足の向上を目指す場合に使用することができます。

人事往来

日付	氏名	異動内容	新	旧
H16.7.14	千々谷真人	退任		理事
H16.7.15	今村 努	任命	理事	
		兼務	横浜研究所長	
H16.7.31	松崎 忠男	退職	(文部科学省)	横浜研究所地球深部探査センター参事役
H16.7.31	小池 洋二	退職	(文部科学省)	総務部次長
H16.8.1	丸岡 賢	採用	総務部次長	(文部科学省)
H16.8.1	和田英太郎	採用	横浜研究所地球環境フロンティア研究センター 生態系変動予測研究プログラムディレクター	

独立行政法人海洋研究開発機構

本部	〒237-0061	横浜市中区夏島町2番地15 TEL 046-867-9066
むつ研究所	〒035-0022	青森県むつ市大字関根字北関根690番地 TEL 0175-25-3811
横浜研究所	〒236-0001	神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25 TEL 045-778-5316
国際海洋環境情報センター	〒905-2172	沖縄県名護市字豊原224番地の3 TEL 0980-50-0111
東京事務所	〒105-0003	東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル10階 TEL 03-5157-3900